

円錐曲線について(2)

こむろ くに お
小室 久二雄

第2章 平面上の問題に還元する方法

ここでは、円錐の平面による切り口を、円錐の軸を含み切り口の平面に垂直な平面上で考える。

$$\text{円錐 } x^2 + y^2 = z^2 \tan^2 \alpha \quad \left(0 < \alpha < \frac{\pi}{2}\right) \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

$$\text{切り口の平面 } y \cos \theta + z \sin \theta = p \quad \left(0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{2}\right) \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

を、円錐の軸(z軸)を含み、切り口の平面に垂直な平面すなわちyz平面上で考える。なお、ここではy軸のかわりにx軸を、z軸のかわりにy軸を用い、使い慣れているxy平面上で考えることにする。

①, ②とyz平面との交線はそれぞれ

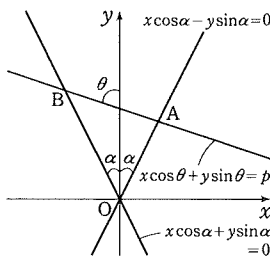
$$x \cos \alpha \pm y \sin \alpha = 0$$

$$x \cos \theta + y \sin \theta = p$$

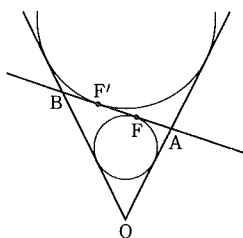
である。楕円の場合を考えれば、2点A, Bを右の図1のように定義すると

AB=(長軸)

である。更に、△OABの内接円、傍接円とABとの接点をF, F' とすると、F, F' がこの楕円の焦点である。本章の目的は、これらの性質を利用して、①, ②の交線の図形の長軸、短軸の長さ、焦点間の距離等を求めることである。



(図1)



(図2)

(I) $\alpha < \theta \leq \frac{\pi}{2}$ (楕円) のとき

図1の点Aの座標は

$$\begin{cases} x \cos \alpha - y \sin \alpha = 0 \\ x \cos \theta + y \sin \theta = p \end{cases}$$

を解くことより

$$A \left(\frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta + \alpha)} \right)$$

更に α を $-\alpha$ にかえて

$$B \left(\frac{-p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta - \alpha)} \right)$$

ここで、

$$\overrightarrow{OA} = \frac{p}{\sin(\theta + \alpha)} (\sin \alpha, \cos \alpha) \quad \text{より}$$

$$OA = \frac{p}{\sin(\theta + \alpha)}$$

同様に

$$OB = \frac{p}{\sin(\theta - \alpha)}$$

次に AB の長さを求める。

← 注意!

余弦定理より

$$\begin{aligned} AB^2 &= OA^2 + OB^2 - 2OA \cdot OB \cos 2\alpha \\ &= \frac{p^2}{\sin^2(\theta + \alpha)} + \frac{p^2}{\sin^2(\theta - \alpha)} \\ &\quad - 2 \frac{p}{\sin(\theta + \alpha)} \cdot \frac{p}{\sin(\theta - \alpha)} (1 - 2\sin^2 \alpha) \\ &= p^2 \frac{P}{\sin^2(\theta + \alpha) \sin^2(\theta - \alpha)} \end{aligned}$$

$$\left[\text{ただし } P = \sin^2(\theta - \alpha) + \sin^2(\theta + \alpha) - 2\sin(\theta + \alpha)\sin(\theta - \alpha) + 4\sin(\theta + \alpha)\sin(\theta - \alpha)\sin^2 \alpha \right]$$

$$P = \{\sin(\theta + \alpha) - \sin(\theta - \alpha)\}^2 + 4\sin(\theta + \alpha)\sin(\theta - \alpha)\sin^2 \alpha \quad \dots\dots (*)$$

$$\left[\begin{aligned} \sin(\theta + \alpha) - \sin(\theta - \alpha) &= 2 \cos \theta \sin \alpha \\ \sin(\theta + \alpha) \sin(\theta - \alpha) &= \frac{1}{2} (\cos 2\alpha - \cos 2\theta) \\ &= \frac{1}{2} (1 - 2\sin^2 \alpha - 1 + 2\sin^2 \theta) \\ &= \sin^2 \theta - \sin^2 \alpha \end{aligned} \right]$$

$$\begin{aligned} (*) &= (2 \cos \theta \sin \alpha)^2 + 4 \sin^2 \alpha (\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha) \\ &= 4 \sin^2 \alpha (\cos^2 \theta + \sin^2 \theta - \sin^2 \alpha) \\ &= 4 \sin^2 \alpha \cos^2 \alpha = \sin^2 2\alpha \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \therefore AB=(\text{長軸}) &= \frac{p \sin 2\alpha}{\sin(\theta+\alpha)\sin(\theta-\alpha)} \\ &= \frac{p \sin 2\alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha} \end{aligned}$$

次に、図2の焦点 F, F' について、

$$FF' = OB - OA$$

← 注意2

が成り立つから

$$\begin{aligned} FF' &= \frac{p}{\sin(\theta-\alpha)} - \frac{p}{\sin(\theta+\alpha)} \\ &= \frac{p\{\sin(\theta+\alpha) - \sin(\theta-\alpha)\}}{\sin(\theta+\alpha)\sin(\theta-\alpha)} \\ &= \frac{2p \cos \theta \sin \alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha} \end{aligned}$$

$$\therefore \frac{FF'}{2} = (\text{中心と焦点間の距離})$$

$$= \frac{p \cos \theta \sin \alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha}$$

更に

$$\begin{aligned} \left(\frac{\text{短軸}}{2}\right)^2 &= \left(\frac{p \sin \alpha \cos \alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha}\right)^2 - \left(\frac{p \cos \theta \sin \alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha}\right)^2 \\ &= \frac{p^2 \sin^2\alpha (\cos^2\alpha - \cos^2\theta)}{(\sin^2\theta - \sin^2\alpha)^2} \\ &= \frac{p^2 \sin^2\alpha}{\sin^2\theta - \sin^2\alpha} \end{aligned}$$

$$\therefore (\text{短軸}) = \frac{2p \sin \alpha}{\sqrt{\sin^2\theta - \sin^2\alpha}}$$

(II) $0 \leq \theta < \alpha$ (双曲線) のとき

直線の方程式は (I) の場合と変わらないので、2点 A, B を右の図のように定めると

$$A\left(\frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta+\alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta+\alpha)}\right)$$

$$B\left(\frac{-p \sin \alpha}{\sin(\theta-\alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta-\alpha)}\right)$$

ここで、 $\theta < \alpha$ に注意すると

$$OA = \frac{p}{\sin(\alpha+\theta)}$$

$$OB = \frac{p}{\sin(\alpha-\theta)}$$

更に

$$AB = (\text{頂点間の距離})$$

$$= \frac{p \sin 2\alpha}{\sin^2\alpha - \sin^2\theta}$$

を得る。

次に右の図の焦点 F, F' (F, F' は $\triangle OAB$ の傍接円と直線 AB との接点) について、

$$FF' = OA + OB$$

← 注意3

が成り立つから

$$\begin{aligned} FF' &= \frac{p}{\sin(\alpha+\theta)} + \frac{p}{\sin(\alpha-\theta)} \\ &= \frac{p\{\sin(\alpha+\theta) + \sin(\alpha-\theta)\}}{\sin(\alpha+\theta)\sin(\alpha-\theta)} \\ &= \frac{2p \sin \alpha \cos \theta}{\sin^2\alpha - \sin^2\theta} \end{aligned}$$

$$\therefore FF' = (\text{焦点間の距離})$$

$$= \frac{2p \sin \alpha \cos \theta}{\sin^2\alpha - \sin^2\theta}$$

(III) $\theta = \alpha$ (放物線) のとき

2直線

$$x \cos \alpha - y \sin \alpha = 0$$

$$x \cos \alpha + y \sin \alpha = p$$

の交点を A とすると

$$x = \frac{p}{2 \cos \alpha},$$

$$y = \frac{p}{2 \sin \alpha}$$

であるから

$$A\left(\frac{p}{2 \cos \alpha}, \frac{p}{2 \sin \alpha}\right)$$

更に、

$$\vec{OA} = \frac{p}{\sin 2\alpha} (\sin \alpha, \cos \alpha)$$

より

$$OA = \frac{p}{\sin 2\alpha}$$

次に、放物線の焦点 F について、

$$AF = \frac{O'A^2}{OA}$$

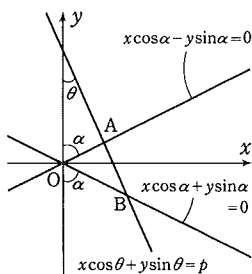
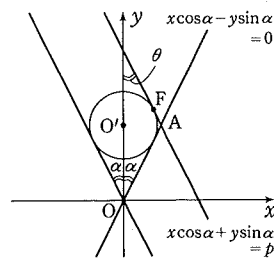
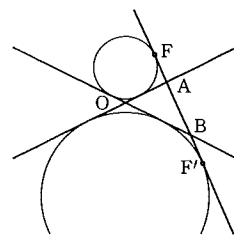
← 注意4

(O' は3本の直線に接する円の中心)

が成り立つから

$$AF = \frac{p^2}{\frac{4 \cos^2 \alpha}{p}} = \frac{p}{2} \tan \alpha$$

$$\therefore (\text{頂点と焦点の距離}) = \frac{p}{2} \tan \alpha$$

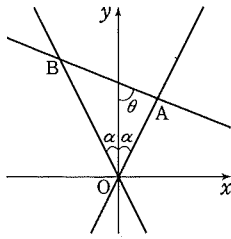


注意1 通常は AB の長さを求めるのに

$$\angle B = \theta - \alpha$$

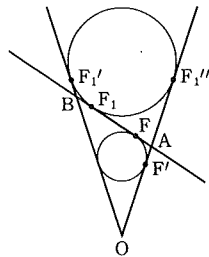
であるから、正弦定理より

$$\begin{aligned} AB &= \frac{OA \sin 2\alpha}{\sin(\theta - \alpha)} \\ &= \frac{p \sin 2\alpha}{\sin(\theta + \alpha) \sin(\theta - \alpha)} \end{aligned}$$



のようにするのであるが、本文に述べた程度の計算を授業で行うことも必要（エレガントな解法ばかり追い求め、計算が少し複雑になるとすぐあきらめる等ねばり強く最後まで計算する生徒が少ないという理由から）と思うので、敢えて本文では複雑な方法で述べた。

注意2 $\triangle OAB$ の内接円、傍接円の接点を右の図のように F, F', F_1, F_1', F_1'' とする。



このとき、

$$2s = OA + OB + AB$$

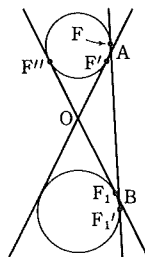
とおくと

$$\begin{aligned} 2AF &= AF + AF' \\ &= 2s - (BF + OB + OF') \\ &= 2s - 2OB \\ &= OA + AB - OB \end{aligned}$$

また

$$\begin{aligned} 2OF_1' &= OF_1' + OF_1'' = 2s \\ \therefore 2BF_1 &= 2OF_1' - 2OB \\ &= 2s - 2OB \\ &= OA + AB - OB \\ \therefore FF_1 &= AB - (AF + BF_1) \\ &= AB - (OA + AB - OB) \\ &= OB - OA \end{aligned}$$

注意3 $\triangle OAB$ の傍接円の接点を右の図のように F, F', F'', F_1, F_1' とする。



このとき、

$$2s = OA + OB + AB$$

とおくと

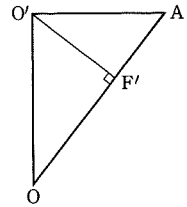
$$\begin{aligned} 2BF &= BF + BF'' \\ &= 2s \end{aligned}$$

同様に $AF_1' = s$

$$\begin{aligned} \therefore FF_1' &= BF + AF_1' - AB \\ &= 2s - AB \\ &= OA + OB \end{aligned}$$

注意4 $\triangle O'OA$ において、 O' から OA に垂線を下ろし、その足を F' とすると $\triangle O'AF'$ の $\triangle OAO'$ であるから

$$\begin{aligned} AF' : AO' &= AO' : AO \\ \therefore AF' &= \frac{O'A^2}{OA} \end{aligned}$$

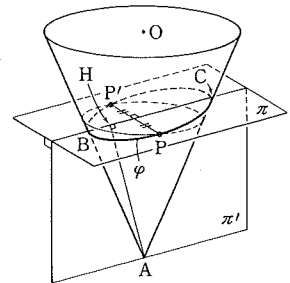


第3章 切り口の平面に座標軸を導入する方法(*)

この章の目的は、切り口の平面に座標軸を導入し、その座標軸上で曲線の満たす方程式を求めることである。

まず、この章で議論を進める上で基本となる次の命題を述べる。

命題4 直円錐 S を頂点 A を含まない平面 π で切ったときの切り口の図形は、直円錐の軸 AO を含み、かつ π に垂直な平面 π' と π の交線に関して対称である。



証明 円錐の頂点 A から平面 π に垂線を下ろし、その足を H とする。このとき、2 直線 AO, AH の決める平面が π' である。

π と円錐との交線を φ とすると、 φ 上の任意の点 P の 2 平面 π, π' の交線 BC (B, C は π' と曲線 φ の交点とする) に関する対称点が φ 上にあることを示せばよい。

P の直線 BC に関して対称な点を P' とする。

このとき

$$PP' \perp BC \quad \dots\dots ①$$

P' は、点 P と直線 BC の決める平面 π 上にあるから

$$PP' \perp AH \quad \dots\dots ②$$

(*) この章の内容は、多くの点で [4] を参考にした。この場をかりてお礼を申し上げる。

①, ②より

$$PP' \perp \pi' \quad \dots\dots ③$$

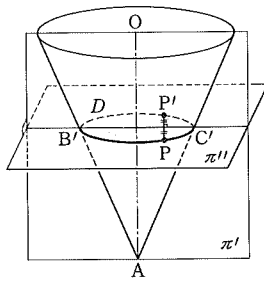
ところで, π' は底面に垂直な直線 AO を含むから

$$\pi' \perp (\text{円錐の底面}) \quad \dots\dots ④$$

したがって, ③, ④より

$$PP' \parallel (\text{円錐の底面})$$

が成り立つ. そこで, P, P' を含む底面に平行な平面を π'' , π'' と円錐の交線を円 D とする. このとき, 2点 P, P' は π' に関して対称であることと, π' と円 D の交点を B', C' とすると B'C' は円 D の直径である (なぜなら π' は円錐の軸 AO を含むから) ことを考え合わせ, P, P' は円 D の直径 B'C' に関して対称である.

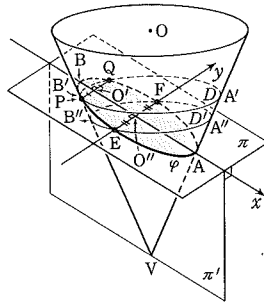


よって, 点 P' は円 D 上すなわち円錐上の点である. 更に, P' は π 上の点でもあるから, 点 P' は π と円錐の交線 φ 上の点である. [証明終]

命題 4 を利用して, 各場合における切り口の曲線の方程式を求める.

(I) 平面が円錐のすべての母線と交わる時

円錐の軸 VO を含む π と垂直な平面を π' とし, π' と曲線 φ との交点を A, B とする. 更に, 直線 AB を x 軸, AB の垂直二等分線を y 軸, y 軸と曲線 φ との交点を E, F とする. ここで, $AB=2a$, $EF=2b$ とおく. 曲線



上の点を $P(x, y)$, P を通り VO に垂直な平面と円錐との交線を円 D とする. 命題 4 より点 P の対称点 AB に関して対称な点 Q は円 D 上にあり, 同様に 2点 E, F は底面に平行な円 D' 上にある. また, π' と円 D との交点を A', B', π' と円 D' との交点を A'', B'', 更に AB と PQ, EF との交点をそれぞれ O', O'' とする.

このとき, 円 D, D' における方べきの定理より

$$PO'^2 = A'O' \cdot B'O', \quad EO''^2 = A''O'' \cdot B''O''$$

$$\therefore PO'^2 : EO''^2 = A'O' \cdot B'O' : A''O'' \cdot B''O'' \quad \dots\dots ①$$

ここで $\triangle AA'O'$, $\triangle BB''O''$ に注目すれば $A''O'' \parallel A'O'$, $B''O'' \parallel B'O'$

であるから

$$A'O' : A''O'' = AO' : AO'', \quad B'O' : B''O'' = BO' : BO'' \quad \dots\dots ②$$

①, ②より

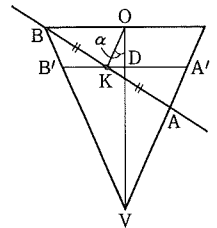
$$PO'^2 : EO''^2 = AO' \cdot BO' : AO'' \cdot BO''$$

ここで, $P(x, y)$, $BO'' = a$, $EO'' = b$ であるから

$$y^2 : b^2 = (a+x)(a-x) : a^2$$

$$\therefore \frac{x^2}{a^2} + \frac{y^2}{b^2} = 1$$

注意 だ円の中心 K は AB の中点であるから, π' 上で考えれば, 中点連結定理より $OK \parallel VA$ であるから, K は円錐の軸上にあるわけではない.



更に, AB の中点 K を通り VO に垂直な平面と円錐との交線である円 D 上で考える. 円 D の半径を r , $\angle KOV = \alpha$ とおくと

$$EK^2 = ED^2 - KD^2 = r^2 - (OD \tan \alpha)^2$$

となる.

$$\therefore 2EK = (\text{短軸の長さ}) = 2\sqrt{r^2 - OD^2 \tan^2 \alpha}$$

この性質を利用して,

$$\text{円錐 } x^2 + y^2 = z^2 \tan^2 \alpha$$

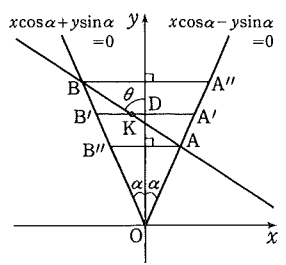
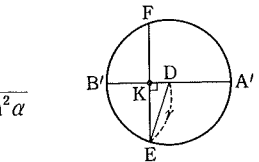
$$\text{切り口の平面 } y \cos \theta + z \sin \theta = p \quad \left(\alpha < \theta \leq \frac{\pi}{2} \right)$$

より得られる楕円の短軸の長さを求めると次のようになる.

π' 上で考えれば右のようになる. このとき

$$A \left(\frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta + \alpha)} \right)$$

$$B \left(\frac{-p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta - \alpha)} \right)$$



であるから, A', A'', B', B'' を上の図のように定

めると

$$A'B = \frac{2p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)}, \quad AB' = \frac{2p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)}$$

であるから

$$\begin{aligned} A'B' &= (\text{円} D \text{の直径}) = \frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)} + \frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)} \\ &= \frac{2p \sin \theta \sin \alpha \cos \alpha}{\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} DK &= \frac{1}{2} (2 \text{点 } A, B \text{ の } y \text{ 座標の差}) \tan \alpha \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta - \alpha)} - \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta + \alpha)} \right\} \cdot \tan \alpha \\ &= \frac{p \sin^2 \alpha \cos \theta}{\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha} \end{aligned}$$

$$\therefore EK^2 = ED^2 - DK^2$$

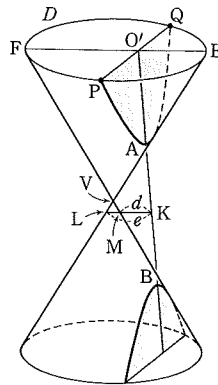
$$\begin{aligned} &= \frac{p^2 \sin^2 \theta \sin^2 \alpha \cos^2 \alpha}{(\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha)^2} - \frac{p^2 \sin^4 \alpha \cos^2 \theta}{(\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha)^2} \\ &= \frac{p^2 \sin^2 \alpha (\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha)}{(\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha)^2} \\ &= \frac{p^2 \sin^2 \alpha}{\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha} \end{aligned}$$

$$\therefore (\text{短軸の長さ}) = 2EK = \frac{2p \sin \alpha}{\sqrt{\sin^2 \theta - \sin^2 \alpha}}$$

(II) 平面が円錐の2つの部分と交わるとき

直円錐の軸を含み切り口の平面 π に垂直な平面を π' , π' と切り口の曲線 φ との交点を A, B とする.

更に, P を通り底面に平行な平面と円錐との切り口を円 D とし, 円 D と VA, VB との交点をそれぞれ E, F, EF に関して P と対称な点を Q とする.



平面 π 上で, AB を x 軸, 線分 AB の垂直二等分線を y 軸, $AB=2a$, 更に, AB の中点 K を通り, 底面に平行な平面と VA, VB との交点を L, M とし $KM=d$, $KL=e$ とする.

このとき, $P(x, y)$ とすると,

$$PO^2 = EO' \cdot FO'$$

であり,

$$EO' : e = AO' : AK$$

$$FO' : d = BO' : BK$$

であるから

$$\begin{aligned} PO^2 : de &= EO' \cdot FO' : e \cdot d \\ &= AO' \cdot BO' : AK \cdot BK \end{aligned}$$

$$\text{よって, } \frac{1}{2} AB = a, \quad de = b^2 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

とおけば

$$y^2 : b^2 = (x-a)(x+a) : a^2$$

$$\therefore \frac{x^2}{a^2} - \frac{y^2}{b^2} = 1 \quad \dots\dots \textcircled{2}$$

注意 双曲線 $\textcircled{2}$ の b^2 は $\textcircled{1}$ で与えられる. この性質を利用して

$$\text{円錐 } x^2 + y^2 = z^2 \tan^2 \alpha$$

切り口の平面 $y \cos \theta + z \sin \theta = p$ ($0 \leq \theta < \alpha$)

より得られる双曲線の $\textcircled{2}$ における b^2 の値を計算すると次のようになる.

π' 上で考えれば右の図のようになる. このとき,

$$A \left(\frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)}, \right.$$

$$\left. \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta + \alpha)} \right)$$

$$B \left(\frac{-p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)}, \frac{p \cos \alpha}{\sin(\theta - \alpha)} \right)$$

である.

$$d = \frac{AA'}{2} = \frac{p \sin \alpha}{\sin(\theta + \alpha)}$$

$$e = \frac{BB'}{2} = \frac{-p \sin \alpha}{\sin(\theta - \alpha)}$$

$$\begin{aligned} \therefore b^2 = de &= \frac{p^2 \sin^2 \alpha}{\sin(\theta + \alpha) \sin(\alpha - \theta)} \\ &= \frac{p^2 \sin^2 \alpha}{\sin^2 \alpha - \sin^2 \theta} \end{aligned}$$

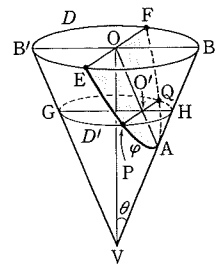
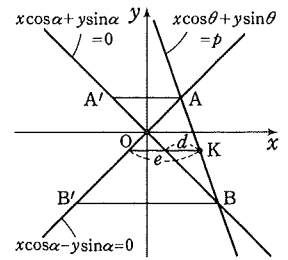
(III) 平面が円錐の1つの母線と平行なとき

円錐の軸を含み, 切り口の平面 π に垂直な平面を π' , π' と切り口の曲線 φ との交点を A とする. 更に, VA の延長上に点 B を

$$VB = 2VA$$

を満たすようにとり, P を

通る底面に平行な円 D' と曲線 φ との交点のうち, P でない方を Q, B を通る底面に平行な円 D と曲線 φ との交点を E, F, 円 D, D' と π' との交点を上の図のように B', G, H , および BB' と EF の交



点をO, GH と PQ の交点を O' とする.

AO を x 軸, A を原点, $EF=(\text{円}D\text{の直径})=2a$ とする. このとき,

$$PO'^2 : EO'^2 = GO' \cdot HO' : EO'^2 \\ = B'O \cdot HO' : EO'^2 \dots\dots (*)$$

(\because 四角形 $B'GO'O$ は平行四辺形であるから

$$B'O = GO')$$

$$(*) = HO' : EO$$

$$= AO' : AO$$

ここで, $P(x, y)$, $\angle OVB = \theta$ とおくと

$$AO \sin \theta = AB \sin \theta = \frac{1}{2}a$$

$$\therefore AO = \frac{a}{2 \sin \theta}$$

$$\therefore y^2 : a^2 = x : \frac{a}{2 \sin \theta}$$

$$\therefore y^2 = 2ax \sin \theta$$

おわりに

本稿は, 昭和 62 年度の自治医科大学の入試問題を題材に数回にわたり講義したものを, 一般的な場合に書き直したものです. 本来は, ここで述べた一般の場合をふまえ, 実際の入試問題(他に 61 年東大・理科, 電通大, 63 年早大・理工)に対して多方面から検討することが大切なのですが, 紙数の関係で省略いたしました. 不十分な点もあるかと思いますが, 高校生, 受験生に対する指導に少しでも役立てていただければ幸いです.

<参考文献>

- [1] 齋藤正彦 線型代数入門 東京大学出版会
- [2] 小室久二雄 代数・幾何 オカミ書店
- [3] 小室久二雄 固有値と不動点 数学教育 (19) 1987 304-309
- [4] 岩田至康 幾何学辞典 1, 2 槇書店

(清真学園高等学校)

